

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年より論述量が減少し、昨年と同様に選択形式で出題された考察問題が多かった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 論述	遺伝子 タンパク質	生物	問2 操作Iにより得られたプラスミドは、抗菌剤X耐性遺伝子をもつものだけである。 問3 BamHIによる切断末端と BglIIによる切断末端は連結できるが、連結部位は制限酵素により二度と切断できなくなる。	やや難
II	選択 記述 計算	遺伝子 遺伝	生物	問4 (う)の場合のみ、反復によりコドンの読み枠がずれないため、タンパク質の分子量が小さくなることはない。 問7 母親由来の相同染色体上の遺伝子座 C からの転写が起こらないと考えられる。	やや難
III	選択 論述	植物の環境応答 感覚	生物	問8 座位の被験者の外耳道に温水や冷水を注入することでリンパ液が流れる半規管は、水平方向の回転を受容する半規管ではないため、眼球の左右方向の運動は起こらない。	やや難
IV	空欄補充 選択 論述	植物の環境応答 系統	生物	問4 寄生植物であるストライガは、宿主植物から栄養分や水分を収奪し生育することと、乾燥条件でも蒸散が起こることに着目して考える。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々な分野から出題されるので、全分野についてもれなく学習しておこう。また、文章読解力を高め、実験考察型の問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントを見抜く力を高める必要がある。問題の分量が多いので、問題文からポイントを見つけて論述解答を手早くまとめるための演習を積んでおこう。遺伝子を扱った問題や遺伝計算が含まれる問題は特徴的であり、かつ出題頻度が高いので、過去問で練習するのがよい。生態の分野は出題される頻度が高いので、注意しよう。